

# 予算決算委員会

補正予算の審査については、総務、文教環境、地域福祉、産業建設の各分科会に分かれ、それぞれの所管に属する予算について詳細な審査を行いました。その後、予算決算委員会の全体会においては、各分科会から審査の経過と結果の報告を受け、審査を行いました。

## 文教環境分科会

### 議案第50号 令和元年度鈴鹿市一般会計補正予算（第2号）の関係分

#### ○教育情報化推進費 3億2,206万4,000円

**（概要）** 2020年度から全面実施される新学習指導要領に対応した小中学校のICT環境を本年度中に整備する経費を計上するもの。

総事業費 27億4,832万7,000円（令和元年度調達分）

本年度 3億2,206万4,000円

債務負担行為（令和2年度から令和6年度まで）24億2,626万3,000円

**【整備内容】** 無線通信環境とICT基盤を構築、端末（教職員用1,300台、児童生徒用3,200台）の配備、教室用ICT機器（大型提示装置950台、実物投影機680台など）の配備など

#### 質疑

一般財源からの支出として予算を措置しているが、国で講じている地方財政措置からはどのような形で還元されるのか。

#### 答弁

2018年度から2020年度まで、単年度で1805億円が講じられている地方財政措置は、地方交付税交付金の形で措置されている。国は基準財政需要額の算定をし、需要額と収入額を差し引きし、不足分を地方交付税として交付する。毎年度、基準財政需要額の算定を行い、算定ごとにあらためて交付されることになっている。



ICTを活用した授業の例

#### 質疑

他市町も同じタイミングで一斉にICT化の環境整備を進める状況が見込まれるが、入札参加業者の確保についての見通しはどうか。

#### 答弁

今回の補正予算を策定するに当たって、費用などに関する情報提供依頼（RFI）を、複数の業者に対して3回ほど実施しているため、本市の調達規模などは把握していただいている。他市町も新学習指導要領の実施を控えて一斉に調達をかけるため、なるべく早くプロポーザル方式などでの調達を実施できるように準備を進めたい。



ICT環境整備を進めましょう！（文部科学省H29.3）から